

星の降る夜に



青くて広い海の上、白くて  
冷たい氷の山で、ちいさな  
ちいさなペンギン。スーは  
かたい殻から小さな顔  
を出しました。



ある時 スーはひとりぼっちでした。  
お父さんもお母さんも いつになっても  
もどってきません。よく晴れた青い空。  
暖かい午後の 陽射しの中 スーを  
のせた氷の山は、どこまでも続く  
広い海を ゆっくり流れていきました。



いつの間にかおひさまは 海の  
向こうへ 姿をかくしてしまいました。  
スーは じっとも、心細くなりました。  
でも、スーは 強い子なので、絶対に  
泣いたりしませんでした。



そして空を見上げると一面に  
たくさんの星が輝いていました。星  
の輝きに見とれていると、ゴツンと  
いう音がしました。ふと見ると、  
氷の山にイルカが頭をぶつけて  
いました。



「あゝ 痛かった。星を見てたら氷の  
山に気づかなかったよ。」イルカ  
は 笑って言いました。

「星が降ってきそうな夜だね。今夜は  
僕の誕生日なんだ。」イルカの死  
前は クー-といいました。ス-とク-は  
じっ、と 空の星を見つめていました。





「スーはひとりほっちなの？」クーは  
静かにききました。スーはこくんとうな  
ずきます。

「僕たち、友達になろうよ。これから  
ずっと一緒に海を泳いだり、こうして星を  
見たりしよう。」

スーはとってもうれしくなりました。



スーはクーのために歌を歌い  
ました。「素敵な誕生日プレゼント  
をありがとう。」クーはとっても幸せ  
でした。「スーの誕生日には、  
星をプレゼントするよ。」





それからスーとワは毎日一緒に  
海を泳いだり、星を見て過ごしまし  
た。いつのまにかスーは大きくなり  
ました。一人で海もスイスイ泳げる  
し、おさかなだってとれるようになり  
ました。



そして あと7回太陽が顔を出せば  
スーの誕生日. というある日. クーはとつ  
ぜんスーの前から姿を消しました。  
スーはとても心細くなりました。クー  
のいない日は とても長く感じら  
れました。



とうとう7回目の太陽が沈み、  
スーの誕生日の夜がきました。  
スーはクーのいないさみしさに  
たえられなくなって、声を上げて  
泣きました。と、とっぜんスーを  
かこむように海の底がぼおっと  
明るくなりました。



「星が降ってきたよ。ほら、  
見て。」クーの声です。スーが  
ふりかえると、クーは光輝く  
星を持っていました。  
「お誕生日おめでとう。約束  
のプレゼントだよ。」



それは、夜空の星の明かりに  
照らされて美しく光るシロヒトデ  
でした。その夜 スーのまわりに  
散りばめられた無数のシロヒトデ  
は美しく輝きつづけました。

